

This Month's PICK UP TOPICS !

EVENT 01

君もプレゼンターにならないか？ 第4回プレゼンバトル(12/3)プレゼンター募集！

理工学メディアセンターでは、第4回プレゼンバトルを12月3日(火)に開催します。
現在、プレゼンターを大募集中です！ 塾生・職員の方であれば、理工学部以外の方も大歓迎です。
プレゼンターの方には7分という限られた持ち時間の中で、趣味・推し・研究内容など自由なテーマ・主張でプレゼンを行っていただきます。優勝者は当日会場に集まった観戦者の投票によって選出します。熱意あふれるプレゼンで観客を魅了し、栄冠を勝ち取りましょう！

優勝者には図書カード3,000円分が贈呈されます。また、挑戦する勇気を称えてプレゼンター全員に図書カード1,000円分を贈呈いたします。その他詳細は右記コードから確認してください。

「我こそはNo.1プレゼンター」という自信に溢れた方はもちろん、授業や学会での発表に向けて実践的な経験を積みたい方、人前で話す力を磨きたい方など、皆様からの挑戦をお待ちしています！

第4回プレゼンバトル開催
12.3 18:10~20:00
理工学メディアセンター創想館1階
詳細・申込はこちら!!

NEWS 02 サイエンスカフェ 開催報告

7月5日(金)、生命情報学科の藤原慶先生を講師にお迎えし、第24回サイエンスカフェ「生命を『創る視点』で眺めてみる」を開催しました。

参加者には矢上地区以外の学生や教職員も多く、会場と配信合わせて43名が先生の熱い講演に耳を傾けました。講演後は質疑応答が活発に行われ、イベント終了後には先生と参加者が直接交流する、サイエンスカフェならではの光景が見られました。



参加者アンケートには、「初学者でも理解しやすい流れで話が進み、生命とはというテーマに関してより興味が湧くような講演だった」「大変興味深く拝聴いたしました。学科や専修を越えての質疑応答も興味深いものがありました」といった感想が寄せられました。

今回のサイエンスカフェは10月に開催予定です。
どうぞ楽しみに！

EXHIBITION 03 矢上での生活



理工学メディアセンターの院生スタッフによる展示「矢上での生活2024」では、矢上キャンパスで研究生生活を送る大学院生10名が、普段の生活の様子、自身の研究テーマなど、十人十色それぞれの「生活」をポスターにまとめています。これから理工学部を目指す高校生から、研究室選び・大学院進学を控える学部生まで、幅広い利用者の方の参考となり楽しんでいただける展示です。ぜひこの機会にご覧ください。

【展示場所】理工学メディアセンター創想館1階
【展示期間】現在展示中～9月13日(金)まで



先生に聞いてみた！

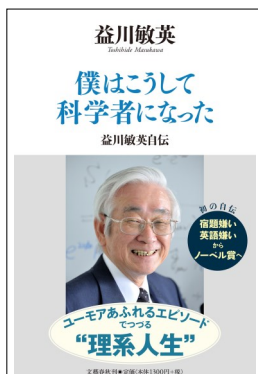
私の一冊

理工学部の教員に、研究に役立つ本、思い出の一冊などさまざまな分野のお薦めの本を紹介していただきます。研究者の见ている世界が垣間見えるかもしれません。



化学科 近藤 寛 先生

研究分野：表面科学、触媒科学



これは益川さんの自伝です。益川さんは、物質をつくる基本粒子クォークの種類を予言した小林・益川理論によって、2008年にノーベル物理学賞を受賞した理論物理学学者です。特に目立った特徴がなかった若者がどのようにして人類の知を切り拓く科学者になったのか。この本はその軌跡を鮮やかに描き出しています。軌跡の鍵になるのは、優れた先達や苦楽を共にする仲間との出会いです。そして、もう一つ。益川さんの人としての生き方に鍵があると感じられます。それが何か、よかったです自身で読んでみて感じていただければ幸いです。ユーモアに溢れた読み物であると同時に、科学者とは何か深く考えさせられる一冊です。

僕はこうして科学者になった：益川敏英自伝

Location 本館2階図書

益川敏英 著 東京：文藝春秋、2016

Spotlight

利用者の皆さんに知ってもらいたいこと、耳よりな情報を写真とともに紹介します。

意外と知らないかも？返却台の役割



皆さんは、館内の各所に置いてある返却台を利用したことはありますか？これはスタッフが資料を書架の正しい場所に戻すためにあるものです。使った資料を適当に「この辺かな」とあたりをつけて戻してしまったなんて経験がある方もいるのではないのでしょうか。もしそれが本来とは違う場所であった場合、その資料を探すことが困難になってしまいます。返却台は、実は探している資料にたどり着けるという利用しやすい環境を整える上で大切な役割を果たしているのです。資料があった場所が分からず戻せなくなってしまった際は、無理に書架に戻そうとせずはこちらを利用してください。

また現在、本館1階に赤い返却台を設置し、レファレンスブックがどのくらい使用されているかという調査を行っています。レファレンスブックとは、事柄や資料など何かを調べるための本のことで辞典・事典などがこれにあたります。館内閲覧のみで貸出できないため、どの本がどれくらい使われているの分かりづらいのです。請求記号にRと書かれているレファレンスブックを使用した際は、書架に戻すのではなく赤い返却台に置いてください。皆さんにとってより有用な資料を揃えられるよう協力をお願いします。



(本記事の筆者は8月に当館で図書館実習を行った文学部3年生です)

創想ライブラリーの壁際に鎮座している立派なCDプレーヤーは、理工学メディアセンター前所長の名言教授より奇贈を受けたものです。図書館の中なので小さな音量ですが、落ち着いた雰囲気の良い音楽が流れており、利用者の皆さんがひと息つける空間を作っています。ちなみに、開館時に好きなCDを選んでセレクトするお当番はスタッフの密かな楽しみだったりします。(SO)

【発行】
慶應義塾大学 理工学メディアセンター
(松下記念図書館)

神奈川県横浜市港北区日吉三ー十四ー一

Webサイト

